

つながり若者センター通信

13号

来年度に向けて

つながり若者センターは今年度末で開設から5周年をむかえます。この間、多くの若者たちと、そして同時に多くの関係する方たちと出会いました。思い返すと私たち「つな若」は、若者たちの自立を共に支えたい一心で走り回ってきました。住む部屋を探す、債務整理を助けてくれる窓口をあたる、仕事について一緒に考える・・・そのために若者と何度も会い、いろんな話をしたり、時にはうさがられたり、付いたり離れたりしながら関係性を築いてきました。関係する支援者の方々との連携も手探りで、お互いのできることや手法を理解できず混乱したこともありましたが、5年を経てわかったことは、数多くあります。若者の自立を支える、とひとことに言っても道すじは一つではないということ。支援は一方通行ではないということ。そしてなにより若者には秘めたるエネルギーがあり、彼らのタイミングで大きく成長するということです。

つな若はこれからも、若者や彼らを取り巻く人々や地域の中で温かい思いやりが循環するような、そんな活動をひたすら目指したいです。いろんな支援の技術やツールを手に入れたとしても、初心の「一心な思い」を忘れず、ひとつひとつの動きを確実に丁寧に、若者たちと共に成長したいと思うのです。

統括コーディネーター 中島

感謝御礼

平素よりつながり若者センターの活動にご理解、ご協力を頂いております。いつもありがとうございます。

このたび、一般社団法人生命保険協会滋賀県協会様ならびに滋賀児童養護施設協議会様をはじめとするみなさまより、温かいご寄付を賜りました。

心より厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいたご厚志は、若者のバースデープレゼントや、居場所活動の充実のため、大切に活用させていただいております。

この場をお借りして、皆様の厚いご支援に深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

つながり若者センタースタッフ一同



新しい年が始まって早くも2か月。今年2026年の干支は午（うま）ということで、「いろんなことがウマくいく年になりますように!」、「笑顔がウマれる年でありますように!」と、皆さん、ユーモアたっぷりに、元気でやろうねという気持ちを込めてあいさつ交換。笑顔の輪がひろがりました。読んでくださっているあなたもクスッと笑える一言をお持ちならば、ぜひ、つな若スタッフに教えてください。小さなことでも楽しいことを考えることはからだによいですね。

つな若の仲間である若者も、春は仕事や所属、自分自身の環境が変わる人も少なくないと思います。自分の考えで変えていく人もいるし、自分の考えというものがよくわからなくなった人もいるだろうと思います。それでも、人生は自分自身のもの。そして生きていくことが大事なのです。

児童養護施設を巣立って独り立ちしている若者も、施設の経験はないけどやっと自分らしく生きようと歩みだした若者も、「つな若」の居場所はオープンです。出かけるのが難しかったら、いまだきなので、オンラインでエアー居場所もできます。だれかに聞いてほしい、だれかに話したいという想い、つな若にアクセスしてみてください。

連絡先 つながり若者センター（滋賀県地域養護推進協議会）

▶ マザーボード
守山市守山6丁目10-68
TEL : 077-582-2221 FAX : 077-582-2330
MAIL : mother-b@shigashakyo.jp

▶ コージータウン
彦根市大東町2-28 アル・プラザ彦根4F
TEL : 0749-21-6370 FAX : 0749-21-6205
MAIL : mother-b@shigashakyo.jp



TSUNA_WAKA

つながり若者センター センター長 谷口郁美

居場所活動

コージータウン

コージータウンの居場所では、今年度から新たに「おさんぽ会」が活動に追加されました。彦根市をぶらっと散歩して、コージータウンカフェに戻ってきてドリンクを飲む、そんな活動ですが、知らなかった彦根の魅力を肌で感じることで、より『地域の中で生活している』感覚が育ったように思います。

また、今年は、若者に季節の行事を楽しんで欲しいという思いから、10月や12月の夜の食堂では、会場をハロウィンやクリスマス風に飾り付けました。それを見つけた若者が嬉しそうに自分もホワイトボードにイラストを描いてくれたりしたことが特に印象的です。

今年度の居場所は若者と一緒に遊んだり、他愛もない話をしたり、美味しいご飯を食べたりしてスタッフも若者と一緒に楽しい時間を重ねてきました。

来年度もより一層、若者と一緒に日々を重ねて「コージータウンの居場所」を作り上げていけたらと思います。

相談支援コーディネーター 藤岡



マザーボードでは年間を通して、毎月「つなわかキッチン」（アウトリーチ型居場所活動）と「つなわかダイニング」（夜の食事会）を実施しました。

つなわかキッチンでは、若者たちの生活する地域の公民館の調理室などをお借りして、メニュー決め、買い出し、調理活動を行いました。ゆっくりと時間を過ごす中で、若者たちの暮らし、悩みごと、将来の夢などについて話し、関係を深めていくことができました。

つなわかダイニングでは、職員で料理をして若者を呼び、みんなで食事をしました。いつも来てくれる若者たちが、新しく友達ができたことや仕事を頑張っていることなどを聞いて、楽しい時間を過ごすことができました。

私たちは居場所活動を通して、若者たちがゆっくり過ごせる時間をつくることはとても意味があることだと考えています。きちんと若者の声に耳を傾けることを大事にして、今後も若者たちの居場所活動を実施できたらと思います。

相談支援コーディネーター 九鬼



『チリン…』とした気がする



はっきり聞こえたわけじゃない。気のせいかもしれない。楽しそうに話してる。スッキリした表情だ。でも聞いてたらちょっと大変そうかもしれないような気もしてきた。

鳴らすつもりはなかった。聞こえなくていいと思ってた。ただ動いた拍子にチリン、と音がした。雑談と何気ない近況報告で「相談」はないけど「聞く」からチラッと聞いた。

大丈夫、否定されない、傷つけられない。そうした安心があって、でも色々な自分のタイミングのなかで、聞こえたチリン…。

安心を育み、つながりの中にい続け、鈴の音に気づくこと。今年度も、その積み重ねを大切にしてきました。そして、その積み重ねをされている方たちともたくさん出会わせていただいています。さらにこのつながりを広げ若者たちのチリン…を拾っていかれたらと思っています。

相談支援コーディネーター 池畑

交流事業振り返り

つながり若者センターでは、若者とのつながりづくりの一環として、県内児童養護施設等のイベントへの参加も積極的に行っています。10/23には小鳩祭、10/26には守山学園創立記念祭、11/3にはかふかびより、12/12には淡海学園学園祭に、また、7月と12月には鳥居本養護学校進路懇談会(さざなみ学園の退園を控えた高3生対象)に参加させていただきました。自立支援員さんの取り計らいで、これから“つな若”がつながっていくとよいであろう子どもたちにご紹介いただいたり、退園生と一緒に販売ブースをお手伝いさせていただいたり、インケア中の子どもたちに“つな若”の存在を知ってもらう機会をいただいています。

若者が「つながりたい」と思ってもらえる存在になっていけたら…その入り口としてまずはインケア中から出逢い、知ってもらう。そしてその一人の若者が持つ関わりや輪に、私たちつな若も重ならせてもらい、さらにその応援の輪を広げていくお手伝いのできたら、そんな風に願っています。

相談支援コーディネーター 田中

